

令和元年度 学校相互評価結果

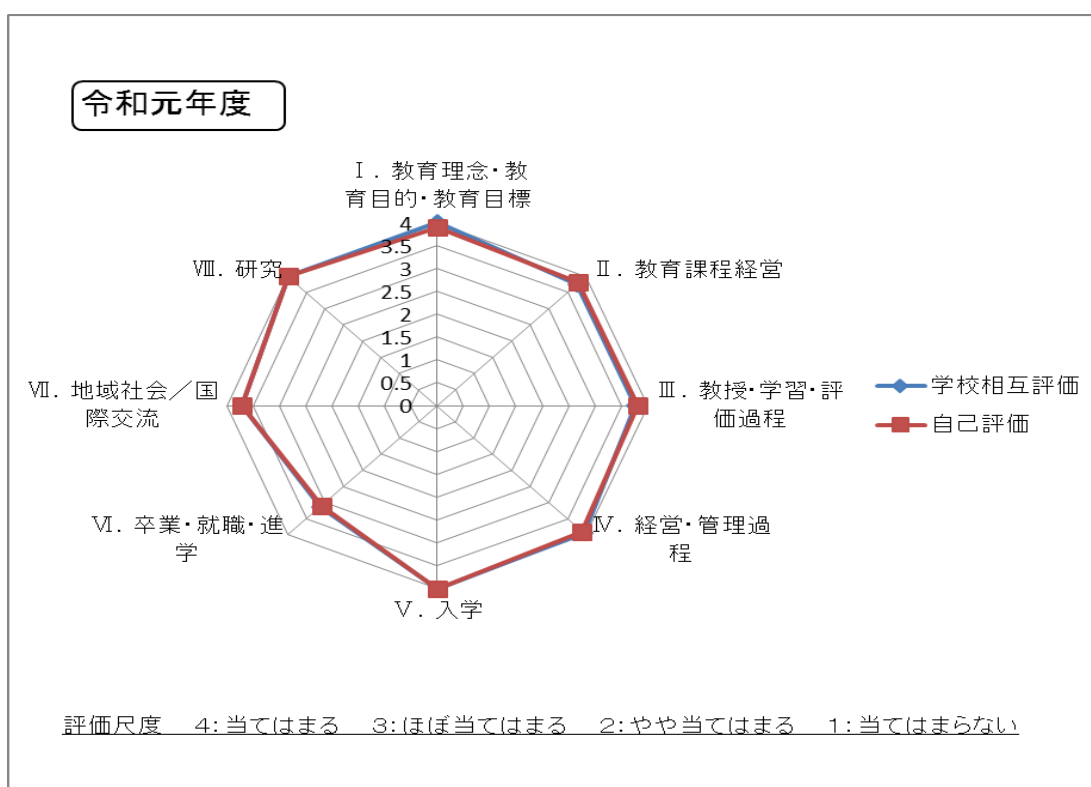
当校では、看護教育活動やその他の学校運営状況について評価を行うことにより、学校運営の改善点を明らかにし、教育水準の向上のために、組織的・継続的に改善をはかる目的で、3年に1回学校相互評価を実施しています。今年度は、学校相互評価を受審しましたので、その結果を示します。

日時：令和元年11月28日（木）

評価委員：中国四国地区の国立病院機構附属看護学校の副学校長・教育主事5名、近畿地区の国立病院機構附属看護学校の教育主事1名、国立療養所附属看護学校の教育主事1名、大学の教授、講師2名、計9名

【看護学科】

評価項目	学校相互評価	自己評価
I. 教育理念・教育目的・教育目標	4	3.9
II. 教育課程経営	3.8	3.8
III. 経営・学習・評価過程	3.8	3.8
IV. 経営・管理過程	3.9	3.9
V. 入学	4	4
VI. 卒業・就職・進学	3.1	3.1
VII. 地域社会/国際交流	3.7	3.7
VIII. 研究	4	4
平均	3.78	3.77



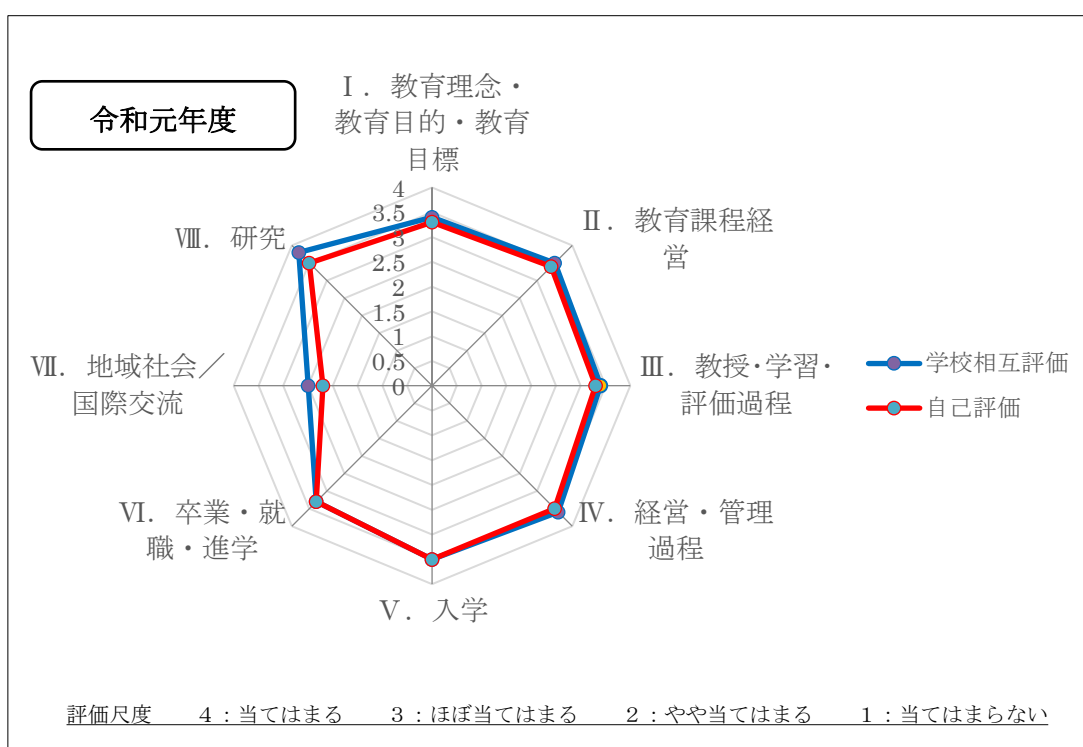
＜評価への取り組み方や、資料の整え方、評価全般的について＞

学校相互評価の目的に則り、前回 の平成 28 年度を受審結果から明らかになった自養成所の課題に一丸となって取り組み、教育水準の維持・向上に多大なる努力をされた成果が十分に伺えるものであった。日程に沿って、期限内に提出書類や資料は整っていた。

今回、教育課程を評価する体系 について、卒業時到達状況を捉える方法、学生が活用できる授業計画（シラバス） について課題としてあがった。自己評価で述べているところの課題改善 や 2020 年カリキュラム改正 に向けた今後の取り組みを期待する。

【助産学科】

評価項目	学校相互評価	自己評価
I. 教育理念・教育目的・教育目標	3.4	3.3
II. 教育課程経営	3.5	3.4
III. 経営・学習・評価過程	3.4	3.3
IV. 経営・管理過程	3.6	3.5
V. 入学	3.5	3.5
VI. 卒業・就職・進学	3.3	3.3
VII. 地域社会/国際交流	2.5	2.2
VIII. 研究	3.8	3.5
平均	3.4	3.3



<評価への取り組み方や、資料の整え方、評価全般について>

学校相互評価の目的に則り、前回の平成28年度の受審結果から明らかになった自養成所の課題に一丸となって取り組み、教育水準の維持・向上に多大なる努力をされた成果が十分に伺えるものであった。日程に沿って、期限内に提出書類や資料は整っていた。評価点が上がった又は下がったことに対する理由の説明(評価の詳細)については「C. 領域ごとの評価」の中で詳しく記述している。参考にいただき、自己評価で述べているところの課題改善や2020年カリキュラム改正に向けた今後の取り組みを期待する。